

**ウッドマイルズフォーラム 2006 in 名古屋  
～ウッドマイルズ入門セミナー**

**日 時** 2006年6月3日(土) 15:30～18:00

**場 所** サンプラザシーズンズ 楠の間

**主催**／ウッドマイルズ研究会

**【プログラム】**

(午前中)

長久手町平成こども塾見学会

(フォーラム)

- ①「ウッドマイルズの3年間と今後の展望ー地球からみた地域資源の指標の可能性」  
(藤原敬／(社)全国木材組合連合会常務理事、ウッドマイルズ研究会代表運営委員)
- ②「地域材建築とウッドマイルズの実践ー長久手町平成こども塾レポート」  
(滝口泰弘／NPO法人WOOD AC代表理事、ウッドマイルズ研究会事務局長)
- ③「ウッドマイレージ CO2 を組み込んだ京都府産木材認証制度の取組」  
(白石秀知／京都府農林水産部林務課担当係長、ウッドマイルズ研究会運営委員)

近くの山の丸太から生まれた、こども達の環境学習施設の見学会も交え、地域材を使う意義や効果をウッドマイルズを通じて訴えた。森林木材建築関係者 32 名が参加。

(長久手町平成こども塾見学会)



午前中、晴天の中、地域の丸太材をふんだんに使った長久手町平成こども塾(設計:NPO法人WOOD AC、小林聡建築研究所/施工:株式会社中島工務店)の見学会が開催され、総会関係者のみならず午後からのウッドマイルズ入門セミナー参加者や名古屋地区の建築関係者が参加しました。

木造平屋で、こども達の環境学習のためのこの施設の設計は、ウッドマイルズをテーマに地域材利用の意義を訴えた設計プロポーザルにより選出されたものです。見学会においては設計者より、地域材丸太のトレーサビリティを環境学習ワークショップに絡める意義や有効性、地域材丸太を使用することによる環境負荷削減効果等が説明され、今後の公共建築物建設において、地域材の利用およびウッドマイルズ概念が非常に有効であることが報告されました。

その後の自由な見学会の中では、活発に利用しているこども達に触れながら、こども塾の雰囲気味わうと共に、公共工事に地域材を利用する場合の木材の手配方法や、丸太構造の接合部の納まり、構造用合板の生産地など、実質的な意見が飛び交い、見学会後は施設の屋外作業場にあるかまどで作った昼食を味わい、暑い中、盛況に終わりました。

(フォーラム)



森林や木材の現状への思いという会長の挨拶から始まったセミナーは、ウッドマイルズの背景や有効性から研究会の意義や展望、長久手町平成こども塾レポートを通じた実践的な有効性、京都府の先駆的な自治体制度の取組報告、と続きました。質疑の中ではまず始めに、地域材住宅の作り手である工務店の方から、地域材住宅を売る側としては、ウッドマイルズだけでは消費者に伝わりにくいという意見があり、住宅の作り手が様々な面で努力していて、より活発にしたいが、簡単には行かない、という地域材や国産材住宅の供給者の抱える厳しい現状が訴えられました。

またNPO活動を行っている方からは、自治体の制度や作り手のみではなく、一般消費者にもっと訴えるべきだというご意見も頂きました。セミナー終了後の交流会で会長が述べていた、ウッドマイルズは建築や消費者の指標でありつつけるべきで、森林・林業・木材という供給者側は、ウッドマイルズに甘んじる前に、費用、技術、品質等の面でより努力すべきである、という意見に代表されるように、地域材や国産材の需要拡大においては、様々な分野での益々の熱意と努力が不可欠であり、ウッドマイルズはその救世主である、という短絡的な発想は捨て、ウッドマイルズによって生まれる山と町の意識改革や関係者のネットワークづくりという土台を着実に培っていくべきだと再認識しました。